

# 資料、1

平成30年度 第2回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	平成30年7月3日(火) 17時45分～19時20分
開催施設 参加者数	金沢大学 5名 福井大学 20名 石川県立看護大学 7名 信州大学 8名 恵寿総合病院 2名 済生会金沢病院 3名 金沢市立病院 1名 小松市民病院 5名 浅ノ川総合病院 3名 富山県立中央病院 2名 高岡市民病院 10名 市立砺波総合 2名 済生会富山病院 3名 医科大学氷見市民病院 11名 諏訪赤十字病院 2名 長野赤十字病院 1名 欠席: 厚生連高岡病院、参加者なし: 富山労災病院 計 86名
テーマ	「レスキュー薬を頻回に使用する患者の対応に看護師が戸惑った症例」
発表者	福井大学附属病院 OCNS 牧野 路子さん
【意見交換内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・痛みについて薬剤で痛みをとるだけではなく、患者の背景を知り、痛みの内容が実際の身体的なものだけではなく、その背景にある患者のこれまでの生活や職業からの影響があることなどについて意見交換を行った。</li> <li>・転病棟による病棟間の情報共有の必要についても意見交換が行われた。</li> </ul> 【他施設からの意見】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・NSIDSを中止しているが、術創の痛みも考慮しアセトアミノフェンの使用もできたか</li> <li>・痛みに対してレスキュー投与だけするのではなく、痛みを訴える背景を知ろうとする姿勢が大事。</li> <li>・オキファストで効果ははっきりしなければ、オピオイドスイッチも考慮してもいいだろう。</li> <li>・医療者だからということでお互いに遠慮もあったかもしれない。医療者で若いのにというのではなく、医療者だからこそよりサポートを強化する必要があるだろう。</li> <li>・傾眠に対してロレゼムの評価も必要だろう</li> </ul>
ミニレクチャー	テーマ: ケミカルコーピングにおける看護師の役割